



# Business Report

2013.1.1 - 2013.6.30

## Second Quarter

本冊子は監査法人の監査を受けておりません。財務セクションの詳細につきましては、最新のIR資料をご参照ください。

#### 見直しに関する注意事項

当資料に掲載されている業績見直し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、当資料作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で行った判断に基づくものです。

しかしながら、実際には通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、当資料記載の業績見直しとは異なるリスクを含んでおります。

当社は、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的開示に努めてまいります。当資料記載の業績見直しのみにより全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等を行われぬようお願いいたします。



**SOLXYZ**  
**GROUP**

# Business Report 2013

2013.1.1 - 2013.6.30

## contents

	経営理念 .....	<b>4</b>
	経営からのメッセージ .....	<b>6</b>
	ソルクシーズグループのビジネス領域 .....	<b>8</b>
	半期トピックス .....	<b>10</b>
	財務ハイライト .....	<b>13</b>
	ビジネス概況と今後の見通し .....	<b>14</b>
	TOP対談 .....	<b>16</b>
	財務セクション .....	<b>18</b>
	株式情報 .....	<b>24</b>
	会社情報 .....	<b>25</b>



このアイコンをクリックすると  
直接アクセスできます

お客様の業務改革を支えるのは、大胆で独創的な発想力、  
そして、迅速な対応力です



**Change,  
Challenge  
& Speed**

ソルクシーズは以下の経営理念を持ち、

- 高い技術力を持ち社会に貢献する
- お客様に最高の満足を提供する
- 皆が夢を持ち続けられる企業をめざす
- 新ビジネス・新技術へチャレンジする
- グローバル企業をめざす

「愛と夢のある企業」をモットーとして、

お客様の夢を実現する

ソリューション・カンパニーを目指しています。



2013年度上半期、今後の取り組みや見通しなどについて、代表取締役社長の長尾章がお答えします

## Profile

代表取締役社長 長尾 章

1955年2月23日生まれ。青山学院大学物理学部卒業後、システムインテグレーション会社に入社。3年後独立し、「技術者の理想郷」を求め、1981年にソルクシーズの前身となるSI会社を共同設立した。2006年に代表取締役社長に就任後はソフトウェア開発事業を軸に、専門特化とストックビジネスの強化戦略を推進。M&Aも積極的に行っている。



**Q.** 当中間期におけるソルクシーズグループの事業環境と取組みについてお聞かせ下さい

**A.** 総体的な企業マインドの改善を受け、凍結していたIT投資やインフラ構築案件が再開し、緩やかながら復調の動きが見られました。当社グループは上半期の施策と

して、SI/受託開発業務における優良案件獲得に向けた営業活動を積極的に展開した外、中期計画に基づきストック型ビジネスの拡充・強化に努めました。

**Q.** 当中間期の業績をどのように評価していますか？

**A.** 主業務であるソフトウェア開発事業は、生損保・クレジットを中心とした金融顧客向け等のSI/受託開発業務が増収となりました。グループ会社においても、株式会社エクスマーシヨンの大手自動車メーカー等を対象とした組込み系コンサルティング業務が好調であり、また、株式会社エフ・エフ・ソルは金融業界への追い風を受けて、銀行向けシステム開発業務が増収となりました。株

式会社tecoはWEBマーケティング支援業務、株式会社アスウェアはICTインフラの設計・構築業務などにおいて増収となり、グループ会社全体を通して好調に推移していることもあり、連結としても好調と言えると思います。

**Q.** グループ会社全体の近況と成長戦略についてお聞かせ下さい

**A.** 「SI事業+ONE」として、もう一つの収益の柱となるよう事業の専門特化とストックビジネスの強化を経営戦略の一つとして掲げ推進して参りました。また、新たな分野への進出を目的に、7月にはスマートデバイス向けアプリケーションの開発及びスマートデバイス向けアプリケーションプラットフォームを提供する株式会社スブラシアと資本業務提携致しました。

海外市場の開拓、クラウド関連ビジネスについても、これまで以上にスピード感を持って鋭意取り組んでいく方針であり、受託開発の分野においても、これまで同様、業種・業務を特化し、着実な成長路線を推し進めて参ります。

**Q.** 事業拡大に向けて、今後の課題は何ですか？

**A.** 中期計画を含め様々な目標を掲げておりますが、人材の成長なくして達成は無いものと考えます。経営幹部やグローバル人材等の育成にはこれまで以上に力を入れて参ります。また、今後SI事業は右肩上がりに推移する

ことは考えにくいことから、SI部門の活性化に向けての取り組みや、ますます増加傾向にあるシルバー人材を活用した新規ビジネスの創出などを促進して参ります。

**Q.** 2013年12月期の見通しについてお聞かせ下さい

**A.** 当社グループでは、株式会社ノイマンにおける自動車教習所向けeラーニングのノウハウを活かした新事業の開始、株式会社イー・アイ・ソルにおける計測系技術を活かした「見える化」製品シリーズの拡充に加え、国内企業のコスト削減や事業継続・災害対策へのITサービス利用ニーズに対応したクラウドサービス事業の推

進、成長著しい中国マーケットへの製品・サービスの展開などを図った結果、上半期は目標を上回る結果となりました。当社グループが属する国内IT投資需要についても、金融・財政政策、成長戦略等により成長に転じるものと見ており、これらの追い風の機運にも助長され、今年度の業績は引き続き順調に推移する見通しです。

**Q.** 株主還元についてお聞かせ下さい

**A.** 株主に対する平成25年12月期の利益配当金につきましては、利益計画が下期に偏っている事を踏まえ、第2四半期末は見送り、期末5円とする予定です。

引き続きご支援ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。





SIビジネスとは、プログラムの作成だけでなく、システム開発に必要な一連の作業であるシステムの企画・立案、必要なハードウェア、ソフトウェアの選定・導入、完成したシステムの保守・管理までを総合的に行う事を指します。

# SIビジネス

## 金融系SI



株式会社 エフ・エフ・ソル

銀行を中心としたソフトウェア受託開発事業、オープン系パッケージソフトの開発・販売  
 ■ 銀行、信用金庫



株式会社 コアネクスト

投資信託・投資顧問会社向けのシステム開発、コンサルティングサービス  
 ■ 投信・投資顧問、J-REIT

## 産業系SI その他



Infinite Consulting  
 株式会社  
 インフィニットコンサルティング

システムの企画・提案に関するコンサルティング、システムマネジメント支援  
 ■ 銀行、証券、信販・クレジット  
 ■ 情報・通信、メディア、製造、流通



株式会社 teco(テコ)

WEBマーケティング支援、WEBプロモーション支援、WEB構築、CRM支援  
 ■ 寝具企業  
 ■ 手芸EC  
 ■ 電力系企業 他

## 基盤構築



株式会社 アスウェア

ICTインフラ分野のコンサルティングから提案・設計・構築  
 ■ 情報・通信

## 組込系SI



株式会社 エー・アイ・ソル

組込・制御・計測系を中心としたソフトウェア受託開発、ソリューションの開発・販売  
 ■ 製造  
 ■ 官公庁



株式会社 エクスモーション

オブジェクト指向技術を用いた組込システムの開発・プロジェクト支援、人材育成支援などの実践型コンサルティング  
 ■ 製造(自動車・OA機器)

## SIビジネス全般



株式会社 ソルクシーズ

各業種に特化したITサービスとソリューションの提供  
 ■ 証券、信販・クレジット、生損保  
 ■ 情報・通信、メディア、製造、流通  
 ■ 官公庁  
 ■ セキュリティサービス

ソルクシーズグループは、  
SIビジネスとストックビジネスの両輪で、  
お客様のニーズに最適なソリューションを提供します。



パッケージシステムの開発・販売などの事業を指します。当社グループでは安定収益業務という意味で、SIビジネスと区別して「ストックビジネス」と呼んでおり、その拡大を推進しています。

## ストックビジネス

### 介護関連



**いま)イルモ**

いまイルモ

独居高齢者を見守る介護支援サービスの開発・販売  
■一般コンシューマー

### クラウド



**Shared Office**

クラウドシェアードオフィス

クラウド上の帳票サービス及びコンテンツ管理と情報漏洩防止のビジネスSaaS

### デジタルサイネージ



株式会社 インターディメンションズ

映像・音響・監視カメラなどのセキュリティサービス及び、コンテンツ配信、デジタルサイネージのコンテンツ作成・企画  
■アミューズメント、不動産  
■美容院、アパレル



索路克(杭州)信息科技有限公司

デジタルサイネージ関連機器、電子棚札関連機器の開発・販売  
■中国国内のスーパー、百貨店

### 教育関連



株式会社 ノイマン

自動車教習所向けeラーニングシステム、基幹システムの開発・販売  
小中学生向けeラーニングシステムの開発・販売  
■自動車教習所  
■学習塾

ソルクシーズグループでは、業種・業務別に特化した専門組織による高度なSI/システム受託開発に加え、専門ノウハウを活かして開発した業務特化型パッケージシステムなどをご利用頂くサービスを展開しています。

ソルクシーズグループは、SIビジネスとストック型ビジネスの両輪でお客様のコアコンピタンスへの集中とビジネスの成功に継続的に貢献いたします。

# 新サービス「KOJIRO」の開始

株式会社ノイマン

ソルクシーズの100%子会社である「株式会社ノイマン」において、自動車教習所における学科学習用システム（全国シェア60%強）の開発経験とノウハウを活かし、小学生・中学生向けの学習塾用 e ラーニングシステム「**KOJIRO**」を開発、平成25年4月1日よりサービスを開始しました。このシステムの特徴は、自主性だけに頼る従来の e ラーニングとは違い、個別指導を行う学習塾に管理機能を提供し、e ラーニングの結果から分析される不得意な学習項目を中心に直接指導して頂く事を前提にしています。出題形式は全て四者択一式にし、スマートフォンやタブレットで手軽にいつでもどこでも日常的に問題が出来るようにしました。単調になりがちな反復学習ですが、子供たちのモチベーションを維持できる様、正

解する毎にポイントが付加され、ポイントが増えるとアバターがグレードアップするなどゲーム的な要素を多く取り入れました。また、最重要の基礎項目については、ストーリー仕立てのアニメーションを制作し、キャラクターが分かり易く解説する事で、イメージと共に本質を正しく理解する事ができます。子供たちは反復学習を楽しみながら基礎項目を身につける事ができるのです。

販売価格は月額利用料として1名につき3,000 円程度に設定し、当面は「個別学習塾 まつがく」等の学習塾の既存生徒を中心に販売する予定であり、今年度は5,000 名、来年度は10,000 名の利用者を見込んでいます。



The screenshot displays the KOJIRO user interface. At the top, there are navigation links for '登録情報' (Registration Info) and 'ログアウト' (Logout), along with the user's name 'サンプル学習塾 サンプル教室 山田 花子さん' and a 'マイページ' (My Page) link. The main area shows the user's current level as 'アルティール1234 レベル14'. Below this, a progress bar indicates '100%' completion for the current month's target. A list of subjects follows, each with a progress bar and a '学習開始' (Start Learning) button:

- 国語: 100pt / 400pt, 0% progress
- 数学: 100pt / 400pt, 0% progress
- 理科: 100pt / 400pt, 0% progress
- 地理: 100pt / 400pt, 12% progress
- 歴史: 100pt / 400pt, 0% progress
- 公民: 100pt / 400pt, 0% progress
- 英語: 100pt / 400pt, 0% progress

On the right side, there is a message box with a character saying: 'こんにちは！山田太郎さん。今日も頑張ってメダルを獲得しましょう！今日は地理の学習を進めよう！' (Hello! Mr. Yamada Taro. Let's work hard today to win a medal! Let's advance our geography learning today!). Below the message is a '最近の獲得ポイント' (Recent Points Earned) section with a calendar showing points earned on 24th (100pt), 25th (100pt), and 28th (100pt).

## 新サービス「いまイルモ」の開始

## 株式会社ソルクシーズ

ソルクシーズは、遠隔からスマートフォン等を使用して独居高齢者を見守る介護支援サービス「いまイルモ」の販売を2013年8月1日より開始しました。「いまイルモ」は、5種類のセンサー（赤外線・照度・モーション・温度・湿度）を搭載した機器を3台セット（親機1台、子機2台）で設置し、高齢者の生活状況を把握します。このセンサーは独自技術により小型化・無線化していて、「生活を覗き見られる」といった不快感を持たれる事なく、トイレの利用回数など生活パターンや在宅時の行動情報を収集します。センサーで把握された高齢者の生活情報は、インターネットを経由してセンターシステムで収集し、当社独自のアルゴリズムにより24時間、自動的に記録しますので、高齢者がセンサー内から離れ

ていても、何処に何時まで居たのか追跡可能です。また、お知らせボタンが押された時や、予め設定した数値（温度）に変化があったことを感知した場合には、見守る方へメールを配信する事もできます。

本サービス事業の初年度加入者目標は500世帯（販売見込み8千万円）を目指し、今後3年間で2.4億円の販売を目標としています。また、このサービスは高齢者向け以外にも幅広く応用できるものと考え、事業は拡大していくものと期待しています。



## いまイルモ



### ■セット内容

- ・みまもりセンサー 3台（親機 1台、子機 2台）
- ・ACアダプター 3個

## 「株式会社スプラシア」と資本業務提携

### 株式会社ソルクシーズ

ソルクシーズは、株式会社スプラシアと2013年7月31日に資本業務提携を行いました。スプラシアは、ビジネス向けアプリケーションプラットフォーム「sprasiaSTUDIO」を自社開発し、スマートデバイスアプリ開発、スマートデバイス向けコンテンツ配信、ソーシャルアプリ開発等、幅広い用途に対応することで、顧客より高い評価を受けています。これまでも各方面で利用されてきていましたが、今後はより成長を促すために営業面および人材での協力を目的としてソルクシーズと資本業務提携を行いました。

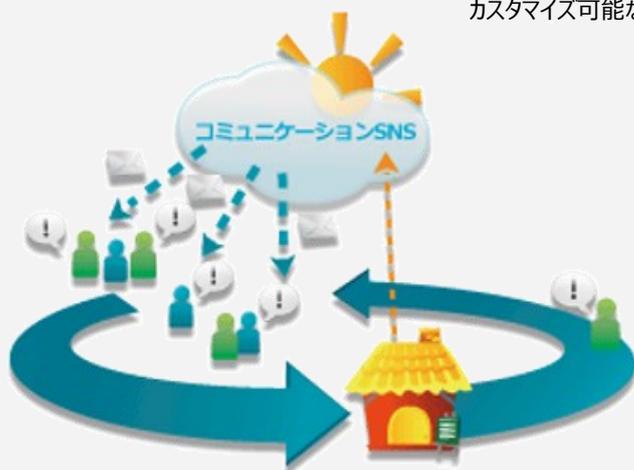
「sprasiaSTUDIO」は、大手電機メーカー、通信キャリア、広告代理店など様々な業種にて導入実績があり、今後も更に幅広い分野での利用拡大が見込まれます。

今後ソルクシーズは、スプラシアの経験を活かし、スマートデバイスアプリやソーシャルアプリなどのビジネス分野に進出する事を予定しています。

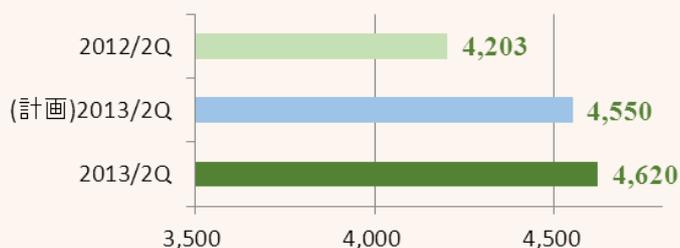
# sprasiaSTUDIO

## ビジネス向けカスタマイズアプリケーション

sprasiaSTUDIOはクラウドコンピューティング上に構築された、カスタマイズ可能なビジネス向けアプリケーションプラットフォームです。



売上高(百万円)



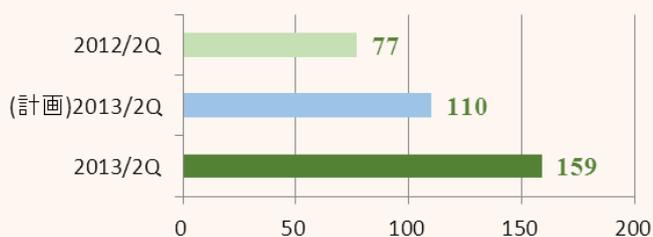
**9.9% UP**

計画達成率 101.5%



金融顧客向けSI/受託開発案件の上昇、グループ各社において製造業関係案件の増加により4,620百万円となりました。

営業利益(百万円)



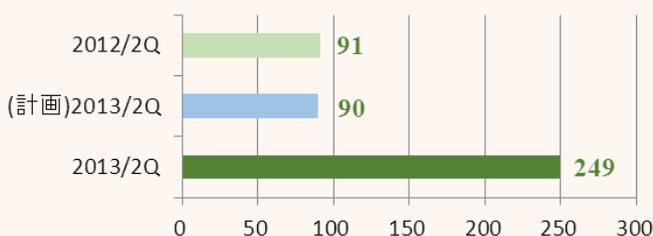
**106.5% UP**

計画達成率 144.7%



過年度より継続的に各方面にわたる経費圧縮努力が功を奏し、159百万円となりました。

経常利益(百万円)



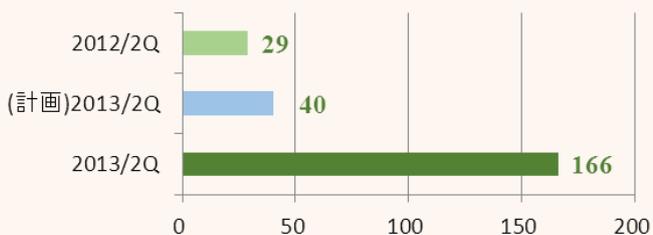
**171.3% UP**

計画達成率 277.3%



営業外収益として円安影響によるデリバティブ評価益の計上があり計画比2.7倍の249百万円となりました。

四半期純利益(百万円)



**470.8% UP**

計画達成率 416.4%



固定資産除却損等の特別損失1百万円、法人税等78百万円を控除した結果、計画比を大幅に上回る166百万円となりました。

純資産額 (百万円)



総資産額 (百万円)



一株当たり純資産額 (円)



一株当たり四半期純利益 (円)

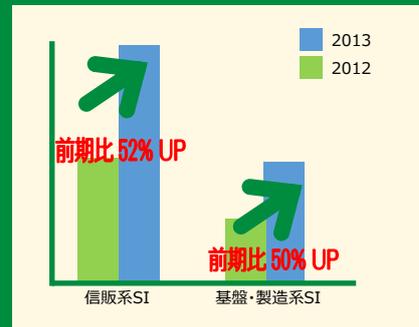




## 現 SIビジネスの概況

リーマンショック以降、案件凍結や延期が常態化していたIT市場。ここに来て、アベノミクスによる景気回復期待から、昨年末を底に回復傾向にあります。長期金利も緩和決定以降は上昇して高止まりし、IT投資にも繋がる可能性が期待出来る状況となっています。中でも

信販向けの案件や銀行向けの案件は増収傾向となっているほか、基盤・製造系と官公庁系の案件は前年度を若干上回り、この傾向は今後も続くものと予想しています。

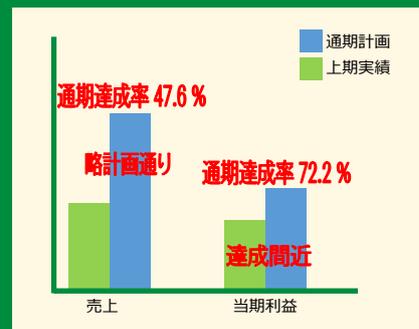


注)数値は何れも個別の数値を参照しています

## 予 SIビジネスの今後の見通し

上半期のSI案件は上流工程が主体となっていましたが、本年度の下半期後半から徐々にSI案件のボリュームゾーンである製造工程に移って行く予定です。それぞれのプロジェクトでエンジニアが大量に必要となり、コントロールも高度になって行き、増々SIerとしての力量が

問われる工程です。ソルクシーズグループでは、受託している案件を必ず稼働させる事を信条としており、この事が今後の増収に繋がります。



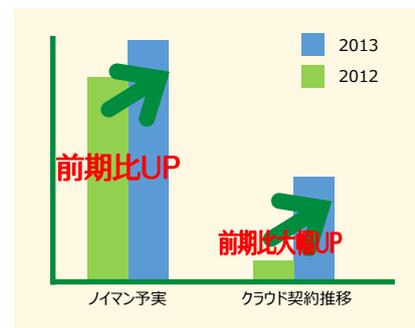
注)数値は何れも連結の数値を参照しています



## 現 ストックビジネスの概況

自動車教習所向けのeラーニングシステムを開発・販売しているノイマンは、60%のシェアを武器に教習所の基幹システムの販売拡充を図り、更に教習所のeラーニングシステムのノウハウを活かした塾向けeラーニングシステム「KOJIRO」の販売を開始し、前期比増収増益

となりました。クラウドは本格的な営業を開始しており、順調に契約獲得が来ています。介護関連は8月から販売開始しており、今後に向けて実績獲得を目指します。

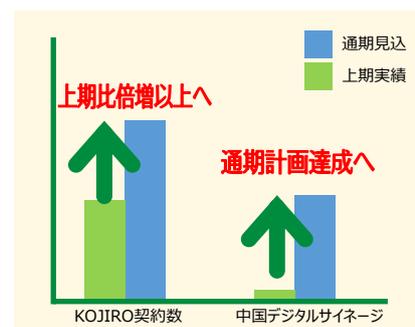


注)ストックビジネス系の数値は開示しておりません

## 予 ストックビジネスの今後の見通し

ノイマンが主体となっている教育関連業務は、「KOJIRO」の販売が順調に推移するものとみており、5,000名の契約獲得を見込んでいます。尖閣問題に関連した中国との政治摩擦の影響から、本年度上期の中国におけるデジタルサイネージ

事業は困難な状況となっていますが、中国の薬事法改正等が追い風となり、小型デジタルサイネージの販売に拍車がかかるものと見込んでおり、年度計画の達成に向けて販売攻勢を行う予定です。



注)ストックビジネス系の数値は開示しておりません

## TOP Interview

株式会社モーニングスター ソルクシーズグループ  
朝倉智也代表取締役社長 代表 長尾章

主力のSI事業は「好調」から「絶好調」へ  
ストックビジネスにも注力し成長力強化



2013年上半期は増収・増益で目標を達成しました。ソルクシーズグループの業績動向と今後の展望について、モーニングスター代表取締役社長の朝倉智也氏に社長の長尾が応えます。

朝倉社長：まず御社の事業内容について、簡単にご説明下さい。

長尾：もともと金融業界に強みを持つSIでしたが、現在では当社のほか、グループ10社で、SIに近いニッチな分野において、幅広い事業を展開しています。各種サービス、パッケージ販売に加えて、最近ではストックビジネスも拡大中。以前から行っているSI事業の保守もストックビジネスの1つですが、現在はeラーニング等のストックビジネスが伸びています。将来的にはSIとストックの営業利益比率を50%、50%程度とし、成長性ととも、事業基盤の強化、安定化も図る方針です。

朝倉社長：前2012年12月期から利益面の回復が顕著です。足元、ならびに今期の受注、業績動向はいかがですか。

長尾：09年のリーマン・ショック後、システム投資を先送りにする企業が増えましたが、あれから4年たちそのまま放置できない状況となってきました。また、昨年末からのアベノ

ミクスの効果もあって経営者のシステム投資に関するマインドが変わり、ストップしていたものが動き出しました。足下のSI事業は好調で、この先も受注増が続く観測から、今後は「絶好調」になっていくでしょう。それに加えて、グループ会社の事業も拡大し、グループ全体で成長が続く見通しです。

朝倉社長：御社が力を入れる、ストックビジネスについて教えて下さい。

長尾：SIの仕事は継続的にあるものの、これ1本だけで成長を続けることは難しい。もう1本、大きな事業の柱が必要だと考えました。それがサービス、パッケージを顧客に提供し、定期的に利用料をいただくストックビジネスです。当社は以前からSIだけの会社といわれるのに抵抗があり、単なるSIでなく、SIに関連する幅広いサービスを模索してきました。大手が手を付けないようなニッチな市場であっても、そこで大きなシェアを取ると業績へのインパクトは大きく、他社との差別化にもなります。

朝倉社長：ストックビジネスには、どんなものがありますか。

長尾：クラウドサービス「CSO（クラウド・シェアード・オフィス）」はセキュリティーの問題をカバーした、コンテンツ共有、帳票サービスです。顧客数は着実に増加しています。一方、子会社のノイマンが開発した学習塾向けeラーニングシステム「KOJIRO」のサービスを今年4月に開始しました。また、8月には独り住まいの高齢者を見守りたいという、ご家族向けの介護支援サービス「いマイルモ」のサービスをスタートしました。「いマイルモ」は高齢者が屋内のどこにいるかを把握するだけでなく、5つのセンサーにより様々な状況が分かるサービスで、従来からあるテレビカメラを使って監視するサービス等より廉価で提供できる点が強みです。

朝倉社長：御社は中国、ASEAN（東南アジア諸国連合）に進出しています。海外展開について教えてください。

長尾：中国には浙江省にデジタルサイネージ等のソリューション販売子会社、索路克（杭州）信息科技有限公司があります。オフショアでなく、ストックビジネスの中国市場での展開を目指しています。厳しい環境が続いていましたが、ここに来て商談が増え、黒字化の見通しが出てきました。一方、ASEANは現状ではまだ未成熟ですが、将来的には主要市場に育つと考えています。当面はASEAN諸国に進出した日本企業関連の受注確保に取り組んでいきます。

朝倉社長：ニッチが広がることで、現代はニッチがメジャーになる時代です。今後の展開についてはいかがですか。

長尾：今回、従来は自動車教習所向けだったeラーニングのシステムを応用した、学習塾向

けの展開を始めました。このように、事業の横展開を徐々に進めることで、既存事業の拡大余地は大きくなります。また、既存サービスにプラスアルファするサービスを加える形での事業拡大も考えています。確かに、ニッチをつなぎ合わせると、いずれはメジャーより大きくなるでしょう。リーマン・ショック後は安定基盤の確立を目指して参りましたが、それはもう一段落つきました。今後は成長に向けた取り組みを積極化していくつもりです。その展開を私自身も楽しみにしています。



## ■ 連結財務10ヶ年中間期サマリー

会計年度 (単位:百万円)	2004	2005	2006	2007	2008
売上高	3,402	3,812	4,041	4,328	4,629
売上総利益	519	710	736	915	1,079
営業利益	156	286	288	474	340
経常利益	157	284	272	542	318
四半期純利益	63	134	54	308	107

会計年度 (単位:百万円)	2004	2005	2006	2007	2008
純資産額	1,946	2,099	2,868	3,165	4,203
総資産額	5,189	5,067	5,523	6,043	7,354
1株当たり四半期 純資産額(円)	294.00	312.64	306.10	346.25	337.63
1株当たり四半期 純利益金額(円)	9.46	19.85	6.48	33.70	8.69
自己資本比率(%)	37.5	41.4	51.6	52.0	56.9

会計年度 (単位:百万円)	2004	2005	2006	2007	2008
営業活動による キャッシュ・フロー	463	245	219	632	67
投資活動による キャッシュ・フロー	-60	-5	5	-67	-940
財務活動による キャッシュ・フロー	-71	-190	407	-102	80
現金及び現金同等物 中間期末残高	1,347	925	1,355	1,388	1,154

2009	2010	2011	2012	2013	会計年度 (単位:百万円)
4,639	4,599	4,584	4,203	4,620	売上高
971	871	942	862	885	売上総利益
28	66	105	77	159	営業利益
0	82	101	91	249	経常利益
-1,027	-10	16	29	166	四半期純利益

2009	2010	2011	2012	2013	会計年度 (単位:百万円)
2,935	3,162	2,305	2,116	2,416	純資産額
6,334	6,461	5,528	6,351	6,656	総資産額
239.72	242.63	213.65	195.88	223.38	1株当たり四半期 純資産額(円)
-83.03	-0.86	1.52	2.72	15.54	1株当たり四半期 純利益金額(円)
46.1	48.7	41.4	33.1	36.0	自己資本比率(%)

2009	2010	2011	2012	2013	会計年度 (単位:百万円)
11	452	-84	282	126	営業活動による キャッシュ・フロー
119	176	-83	-108	-147	投資活動による キャッシュ・フロー
-137	125	-406	349	-68	財務活動による キャッシュ・フロー
1,894	2,461	1,478	2,211	1,872	現金及び現金同等物 中間期末残高

## ■ 主な業績指標

### 売上高



2004年～2008年にかけてグループ会社数の増加に伴い売上増を辿りました。2008年から2010年にかけてサブプライム問題・リーマンショック等の影響により金融業界の不安定化に伴い主業務である金融S Iは減少しましたが、ストックビジネスの増加による底上げによりほぼ横ばいとなりました。2012年では東日本大震災の影響により前年同期比8.3%減と落ち込みましたが、金融業におけるIT投資額の増加、製造業に関連するグループ会社の増収が大きく寄与し、当中間期は前年同期比9.9%増の4,620百万円となりました。

### 営業利益



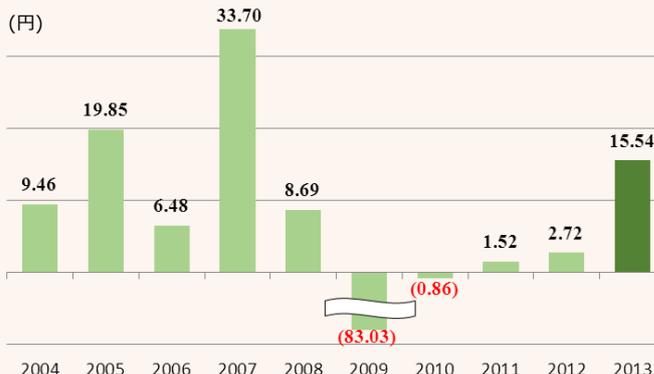
2008年にかけてグループ会社数の増加に伴い増益傾向でありましたが、2009年はグループ会社取得に係る営業権の償却負担増等により販売管理費が大きく増加、受託開発業務によける単価の低下などによる採算性の悪化により大きく減少しました。2010年以降は構造改革をはじめ、既存事業の再評価・選択と集中による経営効率の向上、継続的に各方面にわたる経費圧縮努力を行うと共にCloud Shared Office等の新ビジネスを展開。当中間期は前年同期比106.5%増の159百万円となりました。

### 四半期純利益(純損失)



2009年においては自動車教習所向けソリューション事業やデジタルサイネージ事業等を展開するグループ会社3社に関するのれんについてその全額856百万円の減損処理を行い特別損失を計上しました。2010年以降、IT投資需要の減少が続きましたが、開発案件の積極的な掘り起しを行い、収益率の高い信販・銀行向けシステム開発業務の獲得、大手自動車メーカー等製造業を対象とした組込コンサルティング業務の増加を追い風とし、当中間期は前年同期比470.8%増の166百万円となりました。

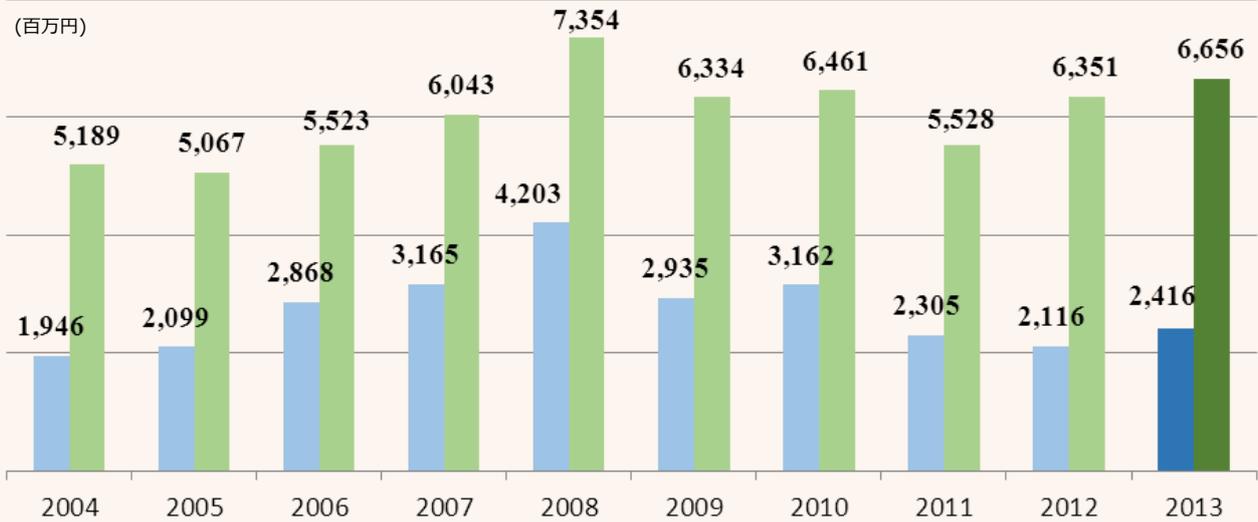
### 1株当たり四半期純利益(純損失)



2009年は特別損失の計上により、四半期純利益が赤字となった為、連動して1株当たり四半期純利益も大幅に減少しました。翌2010年以降、概ね四半期純利益の増減に比例しています。当中間期は前年度比471.3%増の15.54円となりました。

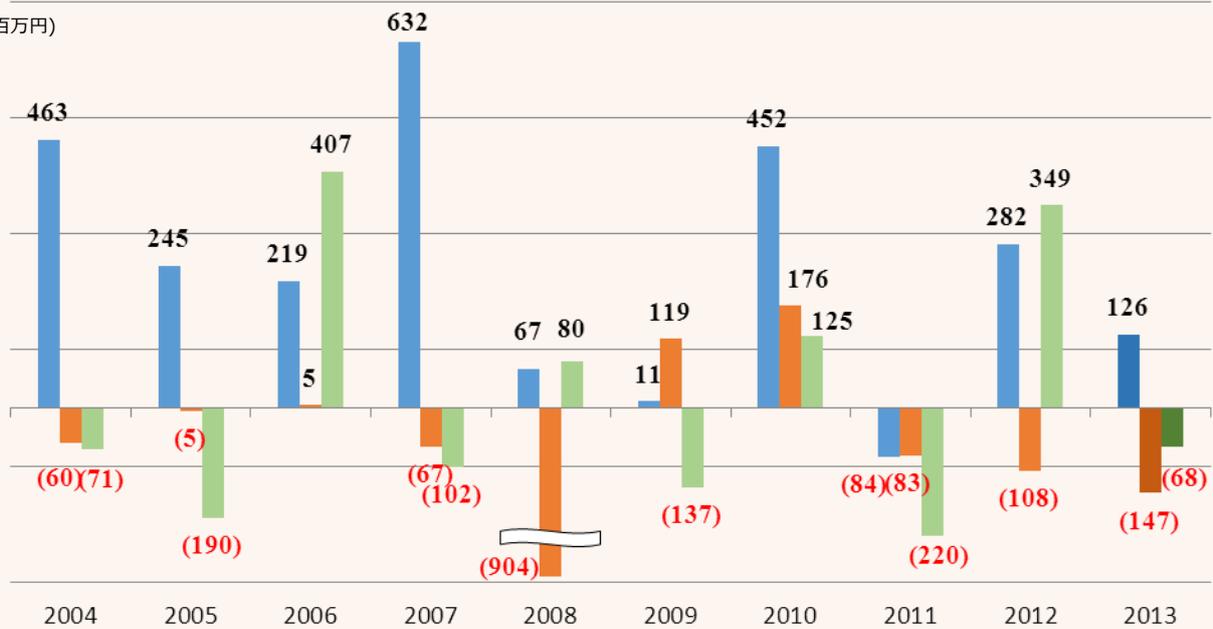
■ 純資産額 ■ 総資産額

(百万円)



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー ■ 投資活動によるキャッシュ・フロー ■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

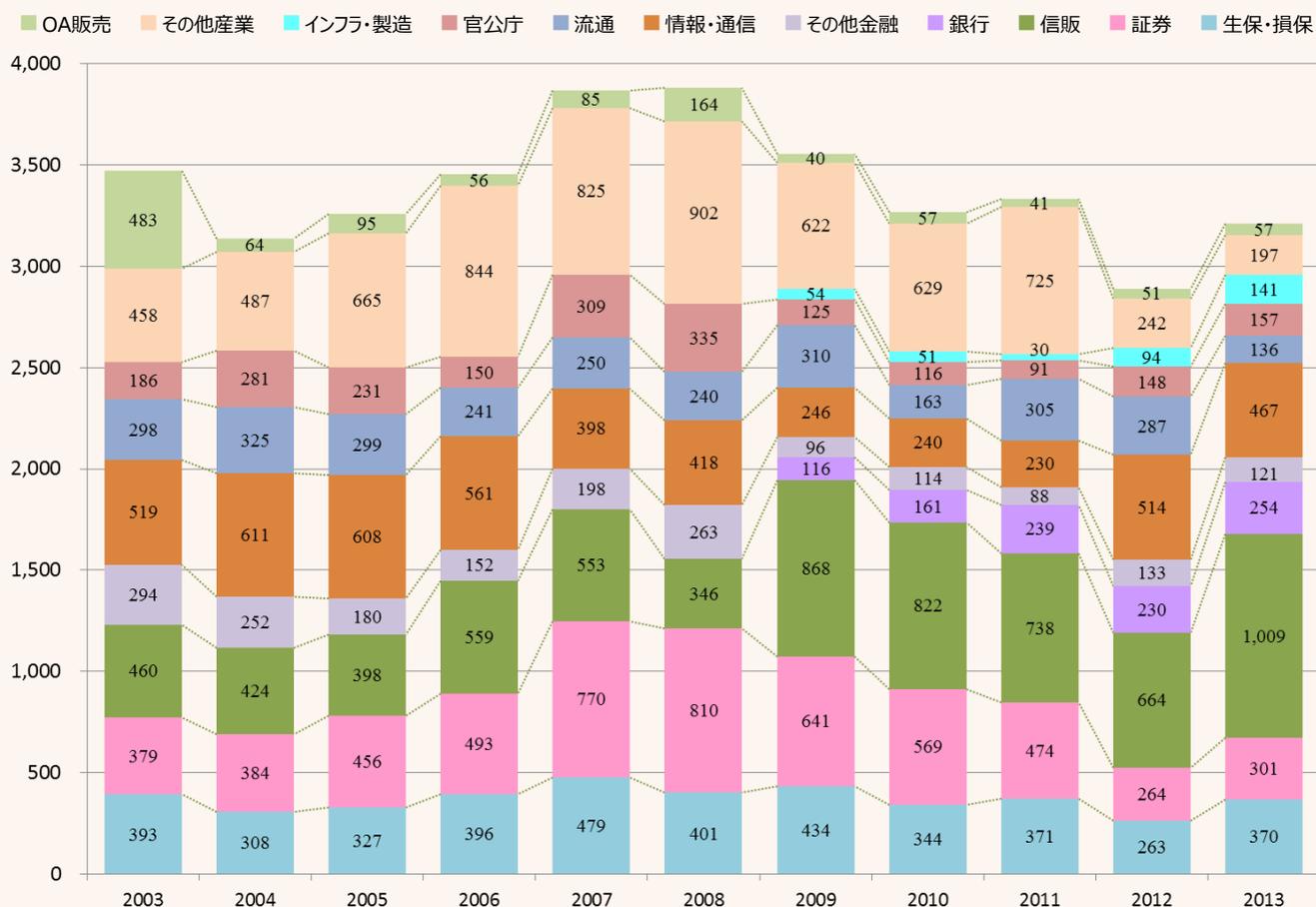
(百万円)



## ■ ソルクシーズ単独 中間期 業種別売上内訳

(百万円)	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
生 損 保	393	308	327	396	479	401	434	344	371	263	370
証 券	379	384	456	493	770	810	641	569	474	264	301
信 販	460	424	398	559	553	346	868	822	738	664	1,009
銀 行						※	116	161	239	230	254
その他金融	294	252	180	152	198	263	96	114	88	133	121
情報・通信	519	611	608	561	398	418	246	240	230	514	467
流 通	298	325	299	241	250	240	310	163	305	287	136
官 公 庁	186	281	231	150	309	335	125	116	91	148	157
インフラ・製造						※	54	51	30	94	141
その他産業	458	487	665	844	825	902	622	629	725	242	197
O A 販 売	483	64	95	56	85	164	40	57	41	51	57

※2009年中間期より、その他金融より銀行及びその他産業より製造を細分化しております。



■ ソルクシーズ単独 中間期 直接・間接顧客別内訳

(百万円)	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
直接顧客	954	1,058	1,031	1,379	1,480	1,114	875	899	860	709
日立系	519	528	701	671	528	452	388	580	757	724
富士通系	559	426	805	700	607	921	927	910	360	699
I B M系	243	250	237	419	383	262	223	327	202	210
その他間接	796	905	627	615	722	768	804	578	663	814



## 株式の状況等

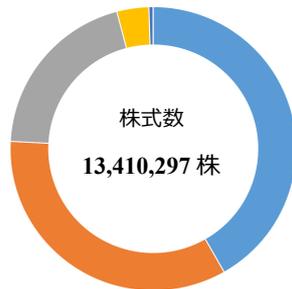
発行可能株式総数	19,600,000 株
発行済株式総数	13,410,297 株 (自己株式を含む)
上場取引所	東京証券取引所 JASDAQスタンダード
上場年月日	2001年7月17日
証券コード	4284
1単元の株式数	100株
株主数	15,023名
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
決算期	12月31日
定時株主総会	3月下旬
基準日	定時株主総会 12月31日 配当金受領株主確定日 6月30日および12月31日

## 大株主の状況

株主名	持株数	持株比率
SBIホールディングス株式会社	2,820,000株	21.02%
自社株	2,689,948株	20.05%
丸紅株式会社	590,200株	4.40%
長尾 章	559,674株	4.17%
日本新思ソフト株式会社	529,200株	3.94%
ソルクシーズ従業員持株会	263,752株	1.96%
センコンインベストメント株式会社	251,000株	1.87%
株式会社トラストシステム	201,440株	1.50%
北愛知三菱自動車販売株式会社	95,500株	0.71%
内ヶ崎 俊夫	95,000株	0.70%
あいおいニッセイ同和損害保険	93,600株	0.69%

## 所有者別株主・株式分布状況

所有者別	株数	比率
個人その他	5,597,631株	41.74%
その他法人	4,572,004株	34.09%
自己名義	2,689,948株	20.06%
金融機関	486,200株	3.63%
金融商品取引業者	62,594株	0.47%
外国法人等	1,920株	0.01%



所有者別	株主数	比率
個人その他	14,928名	99.37%
その他法人	62名	0.41%
金融機関	9名	0.06%
金融商品取引業者	11名	0.07%
外国法人等	12名	0.08%
自己名義	1名	0.01%

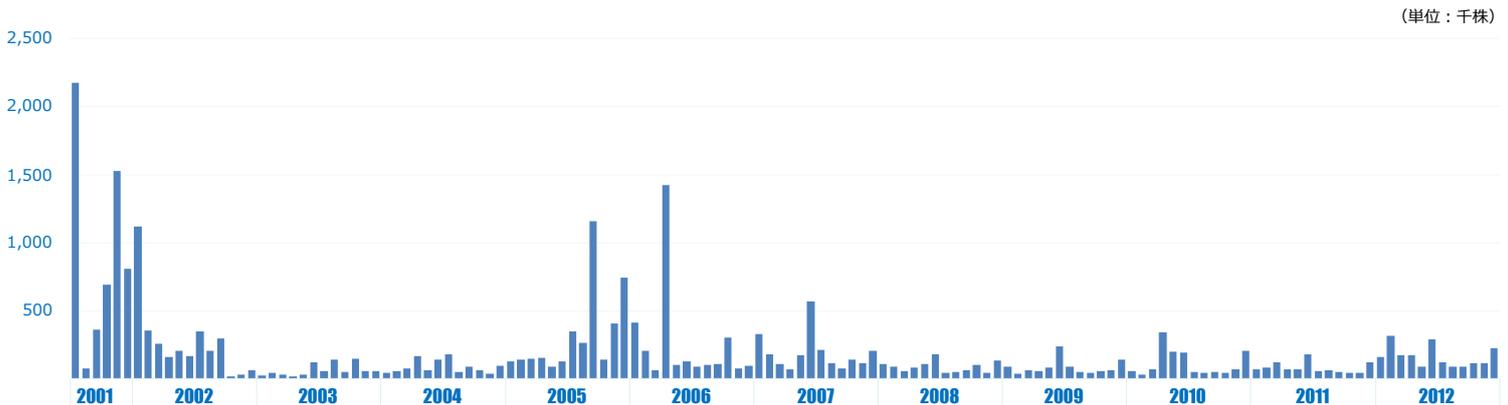


## 株価推移



	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
中間配当	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	5.0	5.0	5.0	0.0	2.5	2.5	0.0
期末配当	25.0	10.0	10.0	10.0	5.0	5.0	5.0	5.0	0.0	2.5	2.5	5.0
年間配当	25.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	5.0	5.0	5.0
期末株価	660	390	380	395	640	400	562	401	374	380	385	350

## 出来高推移



## ■ 会社概要



**社名** 株式会社ソルクシーズ (JASDAQスタンダード: 4284)  
**設立** 昭和56年2月4日  
**資本金** 14億9,450万円 (平成24年12月31日現在)  
**事業内容** SI/受託開発業務 (システムコンサルティング、システムの設計・開発・運用・保守)、ソリューション業務 (セキュリティコンサルティング、パッケージシステムの開発・販売・保守) 及び関連機器の販売等  
**所在地** (本 社) 〒108-0014 東京都港区芝五丁目33番7号 徳栄本館ビル9F  
 TEL. 03-6722-5011 (代表) FAX. 03-6722-5021  
 (福岡営業所) 〒812-0038 福岡県福岡市博多区祇園町四丁目2番 博多祇園BLDG.8F  
 TEL. 092-283-8411 FAX. 092-283-8412  
**従業員数** システムエンジニア442名 営業他スタッフ40名  
 合計482名 (グループ合計653名 平成24年12月31日現在)

## ■ グループ会社

株式会社エフ・エフ・ソル <http://www.ffmpeg.co.jp/>  
 〒108-0014 東京都港区芝5-33-7 徳栄本館ビル Tel : 03-6722-5030 Fax : 03-6722-5031  
 株式会社イー・アイ・ソル <http://www.ei-sol.co.jp/>  
 〒108-0014 東京都港区芝5-33-7 徳栄本館ビル Tel : 03-6722-5040 Fax : 03-6722-5041  
 株式会社インフィニットコンサルティング <http://www.infinite-cs.co.jp/>  
 〒108-0014 東京都港区芝5-33-7 徳栄本館ビル Tel : 03-6722-5055 Fax : 03-6722-5056  
 株式会社ノイマン <http://www.neumann.jp/>  
 〒108-0014 東京都港区芝5-33-7 徳栄本館ビル Tel : 03-6722-5061 Fax : 03-6722-5060  
 株式会社teco <http://www.te-co.co.jp/>  
 〒108-0014 東京都港区芝5-33-7 徳栄本館ビル Tel : 03-6722-5050 Fax : 03-6722-5051  
 株式会社インターディメンションズ <http://www.interdim.co.jp/>  
 (東京本社) 東京都港区芝5-33-7 徳栄本館ビル TEL : 03-6809-3788 FAX : 03-6809-3800  
 (東日本営業部) 宮城県仙台市若林区大和町3-10-1 TEL : 022-238-8221 FAX : 022-284-4321  
 株式会社エクスマーション <http://www.exmotion.co.jp/>  
 〒108-0014 東京都港区芝5-33-7 徳栄本館ビル Tel : 03-6722-5067 Fax : 03-6722-5057  
 株式会社コアネクスト <http://www.corenext.jp/>  
 〒108-0014 東京都港区芝5-33-7 徳栄本館ビル Tel : 03-6722-5058 Fax : 03-6722-5059  
 株式会社アスウェア <http://www.asware.jp/>  
 〒108-0014 東京都港区芝5-33-7 徳栄本館ビル Tel : 03-6722-5720 Fax : 03-6722-5712  
 索路克 (杭州) 信息科技有限公司  
 310052 浙江省杭州市濱江区長河路590号 Tel・Fax : +86-571-28995915

## ■ 取締役・監査役、及び執行役員

代表取締役社長	長尾 章
常務取締役	渡辺 源記
常務取締役	田中 守
取締役	青柳 義徳
取締役	萱沼 利彦
取締役	小森 由夫
常勤監査役	石田 穂積
監査役	佐野 芳孝
監査役	中田 喜與美
(注) 佐野芳孝、中田 喜與美は 会社法第2条第16号に定める社外監査役です	
執行役員	秋山 博紀
	阿部 文也
	樺島 利保
	金成 宏季
	北島 孝則
	長尾 義昭

## ■ 会社沿革

昭和56年2月	受託ソフトウェア開発事業を目的に株式会社エボックシステム設立
昭和63年8月	通商産業省「システムインテグレータ」登録企業となる
平成3年2月	福岡県福岡市博多区に福岡支社 (現福岡営業所) を設置
平成10年1月	株式会社トータルシステムコンサルタントと合併 商号を株式会社エボック・ティーエスシーとする
平成13年4月	商号を株式会社ソルクシーズとする
平成13年7月	JASDAQ市場に上場 (銘柄コード: 4284) 資本金を6億5000万円とする
平成14年11月	全社業務を対象にISMSの認証取得 (平成15年1月からセ キュリティ・コンサルティングサービス開始)
平成15年3月	株式会社エフ・エフ・ソル (連結子会社) を設立
平成15年7月	経済産業省「情報セキュリティ監査企業台帳」登録企業となる
平成16年5月	中国海口市に海南紐康信息系统有限公司(合併会社)設立
平成17年12月	株式会社イー・アイ・ソル (連結子会社) を設立
平成18年4月	SBIホールディングス株式会社と資本・業務提携
平成18年4月	株式会社インタートレードと資本・業務提携
平成18年4月	第三者割当増資 資本金を10億5200万円とする
平成18年11月	東京都港区芝に本社を移転
平成18年12月	株式会社シー・エル・ソル (連結子会社、現株式会社 teco) を設立
平成19年3月	ニューコン株式会社と資本提携
平成19年5月	株式会社インフィニットコンサルティング (連結子会社) を設立

平成19年7月	株式会社イーアイと資本・業務提携
平成19年11月	丸紅株式会社と資本・業務提携
平成19年11月	第三者割当増資 資本金を14億9450万円とする
平成19年11月	株式会社ノイマンをM&Aにより連結子会社化
平成19年11月	株式会社tecoにてウェブマーケティング事業を開始
平成20年3月	株式会社インターコーポレーションの全株式を取得し、連結子会社 化 (これに伴い、株式会社ディメンションズを孫会社化)
平成20年9月	株式会社エクスマーション (連結子会社) を設立
平成21年1月	勤怠管理ソリューション事業を会社分割し、株式会社ティ・エム・ソルを設 立
平成21年2月	株式会社ノイマンによる株式の取得により、株式会社ワイ・エス・アールを孫会社 化
平成21年8月	株式会社ディメンションズを子会社化
平成21年12月	株式会社コアネクスト (連結子会社) を設立
平成22年3月	株式会社ノイマンがその100%子会社である株式会社ワイ・エス・アールを吸収合 併
平成22年3月	浙大網新科技股份有限公司 (セツダイモウシンカギグーフェンユウ ゲンゴウシ) と資本・業務提携
平成22年9月	100%子会社である株式会社ティ・エム・ソルの株式90%を譲渡し、非連結会社 化
平成22年11月	株式会社アスウェア (連結子会社) を設立
平成22年12月	株式会社インターコーポレーションと株式会社ディメンションズが 合併し、株式会社インターディメンションズに改称
平成23年10月	中国浙江省杭州市に索路克 (杭州) 信息科技有限公司 (合併会社) を設立
平成24年11月	国際品質保証規格ISO9001:2008認証を取得



## 究極の問題解決を提供する会社へ

SOLXYZとは究極(XYZ)の問題解決(Solution)を提供したいという願いを込めた社名です。私たちはお客様の夢を実現するソリューション・カンパニーを目指します。

**株式会社ソルクシーズ**

<http://www.solxyz.co.jp>

本社 〒108-0014 東京都港区芝5-33-7 徳栄ビル9F  
TEL.03-6722-5011 (代表) FAX.03-6722-5021

福岡営業所 〒812-0038 福岡県福岡市博多区祇園町4-2 博多祇園BLDG.8F  
TEL.03-6722-5011 (代表) FAX.03-6722-5021



JR田町駅 徒歩1分 都営三田線三田駅A5出口直結